

令和7年度近畿農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」選定地区

ビジネス・イノベーション部門						
No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要	訂正箇所
1	京都府	舞鶴市	株式会社 Muroji-farm	 大粒でとても甘いブルーベリー畑に繋がるゲート、フォトスポット	株式会社Muroji-farmは、高齢化が著しい限界集落において、地域の魅力向上や発信、関係人口の増加を図ることを目的に観光農園「ブルーベリーバレーまいづる」をオープン。 豊かな自然環境を活かし、40品種600本のブルーベリー狩りとハーブ園・健康志向の農園カフェを核とした体験型農園を運営。健康に配慮したメニューの展開や地元のビール醸造企業との協働によるクラフトビールを発売し、さらには就農や田舎暮らし希望などの参画者をつなぐ拠点として発展させることを目指して取り組む。 これらの取組は、地域資源の活用、6次産業化、交流の促進、所得・雇用の増大や、関係人口の創出など、地域活性化に寄与。	12/1 団体名・ 取組の概要 一部訂正
2	和歌山県	那智勝浦町	太田川流域農泊振興協議会	 お寺に泊まる 宿坊に宿泊。インバウンド誘致に取り組む	太田川流域農泊振興協議会は、宿坊を訪れるインバウンド旅行者等と地域の生産者や飲食店をつなぎ、地域全体の所得向上、地域の資源を活かし宿坊の魅力を高めるために結成。 地域においては、もともと宿坊ではない寺院を宿坊へ改装し、英語での仏教体験を提供し、多くのインバウンド旅行者等の訪問につなげ、雇用を生み出した。これを成功事例として、無住寺院(住職不在)の活用に興味のある企業が多く訪れ、また土地等の所有権を分割して投資を募る手法により、無住寺院の改修に取り組む。 これらの取組は、訪れた人と地域の生産者や飲食店をつなぎ、地域全体の所得向上とともに、地域の資源を活かし宿坊の魅力を高めるなど、地域活性化に寄与。	12/1 団体名・ 取組の概要 一部訂正
コミュニティ・地産地消部門						
No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要	訂正箇所
3	滋賀県	滋賀県 全域	「びわ湖魚グルメ」 開発プロジェクト (滋賀県・株式会社 リクルート・滋賀県 漁業協同組合連合会 他)	 パンフレット	「びわ湖魚グルメ」開発プロジェクトは、琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」が世界農業遺産に認定されたことを契機に活動を開始。 グルメ開発は、守り手（生産者）→繋ぎ手（食品関連事業）→買い手（消費者）→支え手（ファン）の4つの手をつなげ、世界農業遺産「琵琶湖システム」を守りながらストーリー性のあるグルメを構築。また、グルメ開発実績が豊富な大手広告代理店と連携し、ウェブやパンフレット、YouTubeなどで多方面へプロモーションを展開。 これらの取組は、提供店舗が拡大し、数多くのメディアに取り上げられるなど、多くの県民、観光客が「知る・体験をする」機会を創出し、食文化の継承、所得向上に寄与。	12/1 団体名 一部訂正
4	滋賀県	甲賀市	うしかい・甲南・信 楽「ふるさと支え合 い」プロジェクト チーム	 田んぼアート写真と甲南高校が提案し土 山 S A で提供されたお茶カツ	うしかい・甲南・信楽「ふるさと支え合い」プロジェクトチームは、「滋賀のふるさと支え合いプロジェクト」により、中山間地域の牛飼地区を中心に、信楽高校・甲南高校が連携し結成。牛飼地区は「うしかい田んぼアート」などの地域活性化活動に取り組んでいたが、デザイン力や人材不足という課題があり、信楽高校・甲南高校がそれぞれの専門性を活かした支援を開始。この協力が契機となり、田んぼアートへの取組のみならず、地域全体の活性化につながり、「卵かけご飯セット」の共同開発・販売や甲南高校の鶏肉と地元製茶企業の土山茶を使った「お茶カツ」の共同開発・販売に信楽高校が提供用の食器の制作などで連携。 これらの取組は、地域資源と高校教育の融合による地域活性化に寄与。	
5	大阪府	堺市	美原の古代米 プロダクツ	 昔ながらの手作業による稲作体験	美原の古代米プロダクツは、「美原の特産品づくり」・「美原の農地保全」のための活動を検討していたところ、他の地域において古代米が栽培されていることを知り、美原区でも古代米を栽培することを目的に活動を開始。 田植え、稲刈りの農業体験イベントの実施や人材育成を通じて、後継者の確保や農地保全につなげ、田植え体験イベントには多くの応募がある。また、収穫された古代米は古代米弁当、ジェラート、いなり寿司、日本酒など様々な商品に加工し、販売している。 これらの取組は、古代米選別やパッケージ作業の就労支援、6次産業化、地産地消、人材育成、農地保全、地域経済の活性化に寄与。	
6	兵庫県	加古川 市	一般社団法人 ため池みらい研究所	 都市住民・大学生を主体としたグループ 活動の様子	一般社団法人ため池みらい研究所は、草刈りに関する地域住民の課題をもとに、課題解決に向けた糸口を探るため、公民学と連携し取組を開始。 現在、5つの活動グループ（①草刈りロボット駆使、②都市住民・大学生主体、③集落住民主体、④若手農家主体、⑤スポーツ科学を専攻する研究者・大学生による草刈りを通した健康づくりグループ）をもって、集落及び広域レベルで行う草刈り作業の体制づくり、草刈り作業に取り組む。 「草刈りフェス」には、地域内外から多くの来場者があり、関係人口創出にもつながり、草刈りだけでなく、地域の夏祭りの運営や農作業へも継続的に参加し、持続的な関係構築に寄与。	12/1 団体名・ 取組の概要 一部訂正
7	奈良県	大淀町	特定非営利活動法人 おいわ結の里	 吊るし柿づくり。地域に残る食文化の 継承活動	特定非営利活動法人おいわ結の里は、人口流出し、地域運営の担い手不足が深刻な状態である中山間地域において、地域外の人を受け入れられる「新たな仕組みづくり」、安心して暮らせる地域の形成に取り組むことを目的に結成。 小さな直売所の運営や地域内で採れた野菜を活用した弁当の製造、伝統行事「大トンド焼き」の準備・実施や地産野菜を使った加工体験（柿の葉すし作りなど）古民家「おいわ結の里」の拠点施設の活用、地域住民や行政、猟友会と連携して獣害対策に取り組む。 これらの取組は、里山の魅力を体験しながら、地域内外と交流を図り、次世代への文化の継承を行うことで、関係人口の拡大、コミュニティづくりに寄与。	12/1 団体名 一部訂正
個人部門						
No.	都道府県	市町村	地 区 名		取 組 の 概 要	訂正箇所
8	兵庫県	洲本市	安達 大樹	 神楽祭の出演と無農薬等で育てる農園	安達大樹氏は、地域の気候や風土に根差した在来種野菜の継承、農薬や肥料に頼らない自然栽培農法といった「目に見えない価値」を未来へと紡ぐ必要性を感じ、これらの価値を次世代へつなぐため、自然農を核とした農泊や農業体験の提供を実践。 また、地元食材を使った食体験、伊弉諾神宮の神事、太鼓・神楽など地域文化のふれあいは地域とのつながりを維持し、SNSや口コミでの情報発信も活発化。 移住定住に結び付き、現在も多くの方が関係人口として継続的に関わるほか、農泊事業の体験プログラム等にも多くの者が参加。さらに農業志望者への経営ノウハウ等の指導・伴走支援を通じて地域の担い手不足解消に寄与。	